

第2回国有林モニターアンケートの結果

国有林モニターの皆様には、毎月、広報誌やパンフレットなどの資料をお送りして、森林・林業、国有林野事業について、情報を発信しているところです。

今回の国有林モニターの皆様へのアンケートは、情報発信に対するご意見や、これらの情報から国有林に対するイメージがどのように変化したかを伺いました。

得られた結果、貴重なご意見は、今後の情報発信に活かしていくよう取り組んでいくこととします。

ご協力いただき大変ありがとうございました。

○アンケート実施概要

実施期間：平成29年2月15日～28日

依頼者数：70名

回答者数：57名

回収率：81%

問1 今まで毎月、国有林モニター通信として送付いたしました下記の資料について、良かったもの（解りやすい、面白い、発見があった等）に○、悪かったもの（難しい、つまらない、役に立たない等）に×を記入してください。特に良くも悪くもない資料については空欄で結構です。（複数回答可）

<回答結果>

結果は下表のとおりです。

表 情報発信資料についての所感（「よかった」「悪かった」）の回答者数

情報発信資料	○(良かった)		×(悪かった)	
	回答数	割合	回答数	割合
<定期発行広報等>				
①林野 （林野庁 情報誌）	43	75%	1	2%
②関東の森林から （関東森林管理局 広報誌）	34	60%	5	9%
③Forest通信 （高尾森林ふれあい推進センター 広報誌）	29	51%	3	5%
④赤谷の森だより （赤谷森林ふれあい推進センター 広報誌）	26	46%	5	9%
⑤絵で見る日本の森林	36	63%	5	9%
<パンフレット等>				
⑥パンフレット 「国民の森林 国有林」	31	54%	1	2%
⑦パンフレット 「知ってほしい森と木のこと」	38	67%	2	4%
⑧資料 「平成28年度関東森林管理局の重点取組事項」	18	32%	10	18%
⑨資料 「森林・林業・木材産業の現状と課題」	26	46%	6	11%
⑩パンフレット 「里山の復旧に向けて 中越地区直轄地すべり防止事業10年の歩み」	31	54%	6	11%
⑪資料 「高性能林業機械による林業の低コスト化に向けた取組」	21	37%	10	18%
⑫冊子 「平成27年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」	20	35%	8	14%
⑬資料 「シカ被害対策」	33	58%	3	5%
⑭パンフレット 「木づかいブック」	37	65%	2	4%
⑮資料 「関東森林管理局における木材利用」	23	40%	3	5%
⑯資料 「木質バイオマスのエネルギー利用」	33	58%	2	4%

問2 問1で選んだものの中に、特に良かったもの、特に悪かったものがあれば、番号とその理由をお答えください。(複数回答可)

<回答結果>

回答結果(抜粋)は以下のとおりです。

良かったものに対しての、ご意見は多かったです、「悪かった」ものに対するご意見は少なかったです。

○「良かったものについて()内は問1の資料番号)

- ・(①) 毎月きちんとテーマが決まっていて、とても読みやすいと感じた。
- ・(①) 林野庁の取組みが写真を交えてとても分かりやすい。「ミス日本みどりの女神」の存在も知ることができた。
- ・(①) 林業に関する情報が一杯詰まっていて、特に地方の取り組みについては興味深く読んでいる。この情報誌を地域おこしのヒントにできないかといろいろと思いを巡らせている。
- ・(①) 日本全国で木を育て、守り、次世代まで考えた計画を知ることができる。内容が幅広く、今の問題点とそれに対する取組を知り、いつも読後感が良いです(将来性を感じる)。特に「林業で地方創生」が好き。
- ・(②) 身近にある地域の事情がわかり、色々と興味深く感じた。
- ・(②) 毎回写真とともにその説明がなされており、知識を深めるのに役立つ。森づくり最前線の記事は、今の現状が取り上げられ、毎回読むのが楽しみ。
- ・(③) 高尾山の生き物たちの紹介は写真も良く読みやすい文章。今月の一句は良いアイデアでつい読んでしまう。
- ・(④) 写真がとてもきれいで読みやすい。
- ・(⑤) 孫と一緒に読みました。5歳、3歳の子どもがいずれ大きくなるだろうその時に、日本の森林の姿を見せ、読んで頭に少しでも残ってくれたらいいと思う。
- ・(⑨) 林業の実態を知ることができた。
- ・(⑨) イラスト、グラフでの説明は理解しやすい。
- ・(⑩) 記憶に残る中越地震であり、復旧にはどのような工事をするのか、写真と図を多用してわかりやすく書かれていた。
- ・(⑬) シカ対策について、今まで知らなかったことが丁寧に分かりやすく説明されていたのでとても良かった。

○悪かったものについて()内は問1の資料番号)

- ・(②) 悪いというより、堅い文章で難しいという印象。
- ・(⑫) 内容が本格的で理解しづらかった。

○その他

- ・(空欄) 定期的な広報誌は、毎号記事が来ることを楽しみにしている。自然がたくさんある地域や森林について、新しい発見があり良かった。ただ、専門的な知識のものまでになると、よくわからないところもあった。

問3 このような情報発信を受ける中で、国有林モニターになる前と比べ、国有林に対するイメージは、変わりましたか、変わりませんでしたか。該当する方に○をつけ、変わった方はどのようにイメージが変わったかの、変わらなかった方はその理由を記載してください。

<回答結果>

回答結果（抜粋）は以下のとおりです。

回答者の大部分の方が、情報発信を受け、国有林や森林・林業に対するイメージが変わったと回答されました。

- ・次々と伐採される山を見ると、「なぜ、こんなに伐ってしまうのだろう」と思っていた。沢山の山に囲まれた村に住んでおり、森林が身近で大切な資源だと思っていなかったので、この仕事に関わっている方々や森林に愛着がわいた。正しい目で自分で確認し、モニターで勉強し、次の世代の子供達と一緒に勉強したいと思う。
- ・新聞やラジオ・TVなどで森林にかかわる内容の時、今まで以上に注意深く見聞きするようになった。
- ・都心の近くに住み、「国有林は優れた自然環境であり、水瓶として大切」くらいに考えていた。モニターを通じ、多くの方々が森林を支えていることを知った。しかも、林業に将来性を感じた。木づかい運動やイベントを知り、間接的にでも国有林を守る活動に参加してみたい。まだ、林業の知識はありませんので、入門書を読み始めている。
- ・森林に親しみが湧くようになり、“緑”みどりに敏感になった。
- ・そもそも「国有林、何だろ？」と全く知らなかったので、「変わった」というより「知ってイメージできるようになった」というところ。森林の公益的機能はうっすら知っていたが、「実際に誰がどんな風にやっているか」までは考えたことはなかった。今は国有林は「国が管理して守っている」と思うようになり、今後は木づかいが必要になるので、私も何か微力ながら、森林のためにできることをしたい。
- ・元々モニターの応募のひとつに、登山で山に入る機会が多く興味を持ったことがある。モニターになりまもなく一年が過ぎようとしているが、林野と一口に言っても、多岐にわたりいろいろな課題があることがわかった。また、登山をしているとき、モニターになってから知り得たこれらの課題を考えるようになった。
- ・今の森林の現状と問題点が少し分かるようになった。森林は身近にあるが、実際の生活に関わりがないので見過ごされてしまっている。問題はたくさんあるのだろうけど、様々な取組みがされている事を知った。
- ・国有林に対してさまざまな対策が行われていて、国有林に携わる人も多いことを知ることができた。意識して日本の木材を使用したものを使っていきたいと思った。

問4 今後、お送りする資料について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

<回答結果>

回答結果（抜粋）は以下のとおりです。

送付資料について、「量的には今までどおりで、内容的には分かりやすく」というご意見・ご要望が多数ありました。

- ・子どもを対象にした絵本タイプの資料があれば良い。
- ・たくさん資料を送付されても読めなくては役に立たないので、今の資料で十分。これからも読むのを楽しみにしている。
- ・国有林モニターや関係者だけでなく、関係資料等は図書館や市民センターの人々が集まる公的機関に常備する必要がある。
- ・知られていない森林について、わかりやすく紹介してほしい。
- ・国有林一覧（地図のようなもの）があると嬉しい。旅先でも「ここは国有林」と認識ができる。
- ・いつもステキな冊子ありがとうございます。「林業に従事する若者」の姿をどしどし特集してほしい。
- ・見やすいものが良い。小さい文字でたくさん書いてあると見にくいので興味が少なくなる。パッと見てパッと入ってくる形の物がほしい。
- ・資料の内容が専門的すぎて難しいと感じる。もう少し素人向けにすると読みやすいのではないか。
- ・図や絵を多く使った資料で分かりやすく説明してほしい。